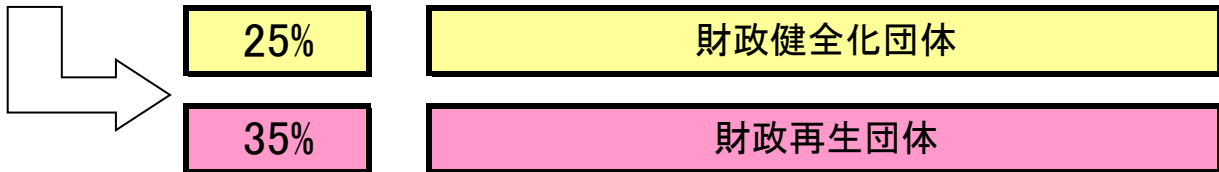


健全化判断指標③

実質公債費比率

一般会計等が負担する元利償還金・準元利償還金の標準財政規模に対する比率 (3ヶ年平均)

準元利償還金・・・繰出金(一般会計等→企業会計)中、公営企業債への償還充当分、債務負担行為に基づく支出中、公債費に準ずるもの など



■算定方法

$$\text{実質公債費比率} = \frac{\text{実質的な公債費 (元利償還金・準元利償還金等)} - \text{充当特定財源額・基準財政需要額算入額}}{\text{標準財政規模 (臨時財政対策債を含む)} - \text{基準財政需要額算入額}}$$

■熊本市の実質公債費比率

H27	$\frac{39,711 \text{百万円}}{159,091 \text{百万円}}$	-	$\frac{26,357 \text{百万円}}{19,880 \text{百万円}}$	=	9.59%	} 3ヶ年平均
H26	$\frac{40,199 \text{百万円}}{160,525 \text{百万円}}$	-	$\frac{27,078 \text{百万円}}{20,632 \text{百万円}}$	=	9.38%	
H25	$\frac{40,278 \text{百万円}}{159,765 \text{百万円}}$	-	$\frac{26,287 \text{百万円}}{19,861 \text{百万円}}$	=	10.00%	
						9.6%

早期健全化ライン (25%) を下回っている